資料１

# 第２次丹波市環境基本計画の評価

## 【基本目標１】“里地里山”の保全・再生と循環利用

【取組の評価】

| 施策の方向性 | 取組 | 環境指標 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | R4 | R5 | R6 | R7 |
| 里地里山の保全・再生 | 森林整備の推進 | 森林整備面積(経済林) | ○ | ○ | ◎ | ◎ |
| 里地里山を活かした循環型社会の実現 | 住宅への地元産材の利用促進 | 使用木材量(個人物件のみ) | ◎ | △ | △ | △ |
| | 森林整備の推進 | 環境保全林整備面積 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 生物多様性の保全 | 農地の保全の推進(多面的機能支払交付金事業の推進) | 活動面積 | ◎ | ◎ | ○ | ◎ |
| | 環境創造型農業の推進 | 有機農業累計生産者数(有機 JAS 認証農家) | ○ | ○ | ○ | △ |
| | | 有機農業生産面積 | ○ | ○ | ◎ | △ |
| 有害鳥獣や外来生物の防除 | 有害鳥獣や外来生物の防除 | 鳥獣被害防止柵設置総延長(累計) | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | 有害鳥獣による農業被害 | ○ | △ | △ | △ |
| 自然環境の保全・育成につながる人づくり | 地域協働による森林整備活動の取組の推進 | 森林山村多面的機能発揮対策交付金交付組織数 | ○ | ○ | △ | △ |
| | | 森林山村多面的機能発揮対策交付金交付組織取組面積 | ○ | △ | △ | △ |
| | 担い手農業者の育成支援 | 認定農業者数(累計) | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | 集落営農組織数(累計) | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 新規就農者の育成支援 | 認定新規就農者数 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |

【主な取組状況（過去 5 年間）】

| | |
|---|---|
| 森林の適正管理と整備の推進 | 林業事業体との連携により、経済林の適正管理と森林資源の循環利用を進めてきました。奥山や急斜面の森林は二酸化炭素吸収源と位置づけ、環境保全林として整備してきました。「森林の多面的機能を持続的なものとするため、地域とともに考え、地域の特性を活かした安全で活力ある水源の森林づくりを進める」を基本理念とする「丹波市森林づくりビジョン」を改定しました。 |
| 里山文化の普及啓発 | 里山文化啓発冊子『丹波里山文化物語』を制作し、丹波の里山に育まれた自然と暮らしの関わりや里山文化の普及啓発を行いました。 |
| $CO_2$ 吸収源としての森林活用 | 市有林等の二酸化炭素吸収量をクレジット化する「J-クレジット制度活用事業」を進めてきました。 |
| 丹波市産材の利用促進 | 住宅等への丹波市産材の利用を補助し、市産材利用と市内林産業活性化を推進してきました。 |
| 有機農業の推進 | 有機 JAS 認証、有機質堆肥の散布、慣行栽培から有機栽培への転換等を支援してきました。また、有機農業の推進に向け「オーガニックビレッジ宣言」をし、「丹波市有機農業実施計画」を策定しました。 |
| 有害鳥獣対策の推進 | 「丹波市鳥獣被害防止計画」を策定し、鳥獣被害防止施策の推進を図っています。鳥獣被害防止柵の資材費助成等により有害鳥獣の防除を進めてきました。 |
| 特定外来生物の防除 | 令和 7 年 7 月に市内で初確認された「クビアカツヤカミキリ」について、早期発見・早期防除による被害拡大防止を進めてきました。また、特定外来生物のオオキンケイギクについて、高校、事業者、地域住民等と連携して防除活動を実施してきました。 |
| 新規就農者の確保・育成 | 農業機械や施設の導入、就農相談、「農の学校」の運営等により、新規就農者の確保・育成を進めてきました。（R7 認定新規就農者数：6 人） |

【今後に向けた主な課題】

- 適切な森林整備の継続と丹波市産材の利用促進が必要
- 有害鳥獣による農作物被害等が続いており、地域と連携した継続的な対策が必要
- 農作物被害や生態系影響を防ぐため、外来種の早期発見・早期防除と被害拡大防止が必要

## 【基本目標２】資源を大切にするライフスタイルの定着

【取組の評価】

| 施策の方向性 | 取組 | 環境指標 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | R4 | R5 | R6 | R7 |
| ５Ｒの推進 | ごみの資源化推進 | ごみのリサイクル（資源化率） | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ごみの減量化 | ごみの発生抑制 | 一人一日当たりごみ発生量 | ○ | ◎ | ◎ | ◎ |

【主な取組状況（過去５年間）】

| | |
|---|---|
| ごみの資源化の推進 | 資源化率向上のために、剪定枝・刈草、紙製容器包装等の資源化を行っています。また製品プラスチックの資源化と容器包装プラスチックとの一体的な回収を開始しました。（R7 資源化率実績：15.8%） |
| ごみ分別アプリによる適正分別の促進 | ごみの収集日、分別区分、ごみを出す際の注意点等を確認できる「丹波市ごみ分別アプリ」を継続して配信し、市民による適正な分別を支援してきました。 |
| ごみの減量 | 燃やすごみの減量を重点的に進め、ごみの発生抑制や再使用を呼びかけてきました。（R7 一人一日当たりごみ発生量の実績：723g） |
| 生ごみ減量の推進 | 家庭から排出される生ごみの減量を推進するため、生ごみ処理容器購入費の一部を助成しました。 |

【今後に向けた主な課題】

・全国に比べ、ごみ発生量が少ない一方でごみの資源化率が比較的低いため、さらなる資源化率の向上が必要

## 【基本目標３】地球温暖化の防止

【取組の評価】

| 施策の方向性 | 取組 | 環境指標 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | R4 | R5 | R6 | R7 |
| 脱炭素社会への移行 | 丹波市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の実施 | 温室効果ガス排出量 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| | 低公害車の導入促進 | 公用車の低公害車率 | △ | △ | △ | ◎ |
| | 公共交通の利用促進 | JR 福知山線 7 駅の乗車人員 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | 路線バス利用者 | ○ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | | デマンド（予約）型乗合タクシー利用者 | ○ | ○ | ○ | △ |
| 新・省エネルギーの活用 | 木質バイオマスエネルギーの導入促進 | 薪ストーブ・薪ボイラー購入補助台数（累計） | ○ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 木質バイオマスへの転換量 | 取扱原木量（薪） | △ | △ | △ | △ |
| | 地球温暖化防止対策推進事業所認定制度の普及 | 地球温暖化防止対策推進事業所認定件数（累計） | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 気候変動に備える | 安全・安心の機能確保 | 防災訓練を行っている自主防災組織数 | △ | △ | △ | ◎ |

【主な取組状況（過去 5 年間）】

| | |
|---|---|
| ゼロカーボンシティ宣言と市民行動の推進 | 2050 年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「丹波市ゼロカーボンシティ宣言」を表明し、市民、事業者、行政が一体となって脱炭素社会の実現に取り組む方針を示しました。日常生活で身近に実践できる取組を「丹波市ゼロカーボンアクション」として整理し、市民への普及啓発を実施してきました。 |
| 地球温暖化対策実行計画の策定 | 「丹波市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を策定し、温室効果ガス排出削減、再生可能エネルギーの導入及び気候変動への適応を一体的に進めることとしました。 |
| 公共施設の省エネ化 | 市役所の事務・事業について、公共施設の設備運用の改善や省エネ化を進めてきました。令和 7 年からは、公共施設への再エネ電力の導入を進めてきました。また、公共施設の省エネ化を進めるため、LED 照明に更新する事業を進めています。 |
| 公用車への低公害車導入 | 公用車の更新時に低公害車の導入を進めてきました。<br>（R7 低公害車率：4.8%） |
| 公共交通の維持・利用促進 | 鉄道利用者へのポイント助成、路線バス事業者への運行補助や、通学定期券購入補助、デマンド（予約）型乗合タクシーの運行等により、公共交通の維持・利用促進を進めてきました。 |
| 再エネ設備等の導入支援 | 市内の住宅や事業所におけるエネルギー利用の最適化・効率化を進めるため、太陽光発電設備、電気自動車等の導入費用を一部補助してきました。 |
| 木質バイオマス利用の促進 | 薪ストーブ、薪ボイラーの購入を支援し、化石燃料から木質燃料への転換、里山整備及び森林資源の地産地消を進めてきました。（R7 累計補助台数：150 台）また、地域の活動組織が間伐材等を搬出し、薪ボイラーや薪ストーブの燃料として利用する「木の駅プロジェクト」が進められ、林地残材の活用と森林資源の地域内循環が図られてきました。 |
| クーリングシェルターの開設 | 暑さをしのぐ一時避難場所として、市内の公共施設等を指定暑熱避難施設（クーリングシェルター）に指定し、「涼み処 まごころ くーる すぽっと」として開設しました。 |
| 地域防災力の強化 | 自主防災組織による防災訓練、「マイ避難計画・個別避難計画」の作成支援、防災フェスタ等を実施してきました。（R7 訓練実施組織数：102 組織） |

【今後に向けた主な課題】

**・再エネ導入・省エネ推進による温室効果ガス排出量の削減を加速させることが必要**
**・移動の脱炭素化に向け、市民の主要な移動手段である自家用車の電気自動車への転換や公共交通の維持、利用促進が必要**

## 【基本目標４】快適で安心して暮らせる環境の保全

【取組の評価】

| 施策の方向性 | 取組 | 環境指標 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | R4 | R5 | R6 | R7 |
| 公害の未然防止と拡大抑制 | 不法投棄の防止対策 | 不法投棄件数 | △ | △ | ◎ | ◎ |
| 河川環境の保全 | 地域への委託による河川環境整備事業及び地域主体による河川愛護活動の実施 | 河川愛護活動・河川環境整備事業取組自治会割合 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 浄化槽の普及促進 | 浄化槽整備率 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 水洗化の促進 | 下水道接続率 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 景観保全の推進 | 沿道、公園の緑化促進 | 緑化資材提供団体数 | △ | △ | △ | △ |
| | 屋外広告物の適正指導 | 是正指導件数 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ |
| | 管理不全な空き家に対する行政指導等 | 特定空家等認定解除件数 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 空き家の適正管理 | 不適正管理地指導件数 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 自然環境等を活かした移住・定住の促進 | 空き家の流通支援 | 住まいるバンク成約件数 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |

【主な取組状況（過去 5 年間）】

| | |
|---|---|
| 不法投棄の防止 | 啓発看板の設置、環境パトロール等により、不法投棄の防止を進めてきました。 |
| 地域協働による河川環境の保全 | 自治会等による河川愛護活動への支援及び河川の除草作業の委託により、地域住民と協働して良好な河川環境を維持してきました。 |
| 生活排水対策の推進 | 浄化槽の設置補助や下水道に関する出前講座等を通じ、生活排水による環境負荷の低減を図ってきました。 |
| 緑化・景観保全の推進 | 自治会等に花苗などの緑化資材を提供し、沿道や公園の緑化と地域の環境美化を進めてきました。また、屋外広告物の申請時の審査や市内パトロールを行い、違反広告物への是正指導を行ってきました。 |
| 空き家・空地の適正管理 | 管理不全空き家について、所有者への助言・指導や法的措置を行い、特定空家等の除却・改善を促進してきました。また、丹波市美しいまちづくり条例に基づき、雑草の繁茂等がみられる空き地の所有者に適正管理を求めてきました。 |
| 空き家を活用した移住・定住の促進 | 丹波市版空き家バンク「住まいるバンク」により、空き家を地域資源として活用し、移住・定住と地域の担い手確保を進めてきました。（R7 成約件数：55 件） |
| 太陽光発電施設の適正導入 | 令和 6 年 4 月に「丹波市太陽光発電施設と地域環境との調和に関する条例」を施行し、200 ㎡以上の地上設置型太陽光発電施設を届出対象とし、禁止区域や抑制区域を設定するとともに、設置基準等を定めました。 |

【今後に向けた主な課題】

- 不法投棄が一定数みられるため、引き続きパトロール等により不法投棄防止を進めることが必要
- 地域での清掃活動や緑化活動等の担い手が減少傾向にあり、人口減少や高齢化が背景にあると考えられる

## 【基本目標５】人の輪で育む環境づくり

【取組の評価】

| 施策の方向性 | 取組 | 環境指標 | 進捗状況 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | R4 | R5 | R6 | R7 |
| 市民の自主的な取組の推進 | 環境美化活動の推進 | 丹波市クリーン作戦参加者数 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 環境学習の推進 | 青垣いきものふれあいの里の利用促進 | いきものふれあいの里来館者数 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ |
| | | いきものふれあいの里講座受講者数 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| | 氷上回廊水分れフィールドミュージアムの利用促進 | 水分れフィールドミュージアムの入館者数 | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| | | 水分れフィールドミュージアムのイベント参加者数 | ◎ | ○ | ◎ | ○ |
| 市の率先した取組の推進 | 生物多様性ホームページによる情報発信 | 氷上回廊ホームページアクセス数 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| | 学校給食への地場農産物の使用 | 丹波市産農産物（野菜主要 15 品目）の使用割合 | ○ | ○ | ○ | ○ |

【主な取組状況（過去 5 年間）】

| | |
|---|---|
| 市民参加による環境美化 | 道路、河川、公園等のごみを回収する丹波市クリーン作戦を継続し、市民参加による環境美化と地域コミュニティの形成を進めてきました。 |
| 自然学習施設を利用した環境学習の推進 | 青垣いきものふれあいの里において、生きものの観察会、自然体験学習プログラム、企画展、出前講座等を実施してきました。<br>氷上回廊水分れフィールドミュージアムを、氷上回廊の地形、生態系、歴史・文化等を総合的に学ぶ施設として運営し、地域学習、企画展、ワークショップ等に活用してきました。 |
| 地球温暖化対策の普及啓発 | 地球温暖化対策への理解を深めるため、丹波市地球温暖化対策講演会を開催しました。 |
| 氷上回廊の情報発信 | 「氷上回廊」ホームページを通じ、地域特有の地形や生物多様性、セツブンソウ、バイカモ等に関する情報を発信してきました。（R7 アクセス数：33,130 件） |
| 市産農産物の利用促進 | 輸送に伴う温室効果ガス排出の抑制や、安全・安心な地場産物の供給に向け、学校給食への市産農産物の使用を進めてきました。 |

【今後に向けた主な課題】

**・市民の環境に関する理解を具体的な行動につなげ、持続可能なライフスタイルに転換していくことが必要**